

祭に“白鳥パレード”

横 沢 重 雄

私の町の夏祭りは八月初旬の三日間、七夕と花火を中心に行われる市民祭の傾向の強いお祭りです。

町の真中を流れる磐井川には昭和五十四年十二月にオオハクチョウ四羽が初めて飛来した。昭和六十年にはオオハクチョウが初越冬し、ピーク時には六十二羽を数えた。昨冬は五百羽を数え、新幹線駅から徒歩十分で見られるところに姿を浮かべています。

初飛来以来、数々のドラマを生み、特に昭和六十一年三月、メスのハクチョウ（カナコと命名）が新幹線の高架橋に衝突し重傷を負ったが、私たちが救助し、動物病院で治療し磐井橋下に放鳥した。

カナコはオスらしいハクチョウと行動を共にする。四月始め、他のハクチョウが北帰行し、カナコとオスのペアだけが残る。数日後オスのハクチョウが飛び去り、カナコだけが取り残されたが、どういかわけかオスのハクチョウが無い戻り、寄り添って磐井川を泳いでいたが、オスは九日後に急死し“白鳥哀れ・つかの間の愛”と全国に報じられた白鳥夫婦愛は、レコード化されたり、ハクチョウの彫像・白鳥夫婦愛（実物の一・五倍の大きさ・二羽）【写真】が作られ一関市役所の前庭の噴水公園に設置されたり、大きな反響をよびました。

このことに一人感動していたクラシック・バレエの先生が、夏祭りに白鳥を讃えるイベントをと、今年から白づくめの衣装で目抜き通りを踊る一団を作りたいと、大張切りの毎日です。

真昼の行事なので、対象は小学生になりそうですが、第一回目の成功がカギと、この祭りの企画特別委員長の私から激励を受け東奔西走中です。テーマ曲はサンサーンスの「白鳥」、どんなイベントになるか、市民の関心を集めています。

なお、一関の白鳥は建設省、市役所、民間団体が川床の整備、餌付け作業など一丸となって取組んでいるもので、将来二千羽の飛来を期しています。

